

石岡市埋蔵文化財調査報告書

市内遺跡調査報告書

第 15 集

2024

茨城県石岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は石岡市が令和2年度行った試掘調査に関する報告書である。
2. 調査は石岡市教育委員会が主体となって実施した。
3. 現地調査は小杉山大輔・竹内智晴が担当した。また、調査・整理の参加者は、下記の通りである。

岡田正夫 北山敏道 酒井洋 牧田保身
大野幸枝 木村友子 鈴木真紀子 富田道代 長谷川則子
なお、遺構・遺物の実測・トレースは金子・木村・長谷川が、採掘は大野・木村・鈴木・富田・長谷川が行った。
4. 本書の執筆は、I～IIIを竹内・金子が、Vを金子が行った。IVは黒沼保子氏より玉稿をいただいた。全体の編集は金子が行った。
5. 調査に関する遺物・図面・写真等の資料はすべて石岡市教育委員会で保管している。
6. 現地調査及び報告書刊行に当たっては下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。ここに記して、感謝申し上げる次第である。（敬称略・五十音順）

茨城県教育庁文化課
7. 事務局は下記の通りである。

岩田利美（教育長）、吉澤房江（教育次長）、柴田健（次長）、松川祥丈（文化振興課長）、箕輪健一（文化振興課副課長）、小杉山大輔（文化振興課課長補佐）、谷仲俊雄・藤岡毅（文化振興課係長）、渡辺幸恵・白谷徹・竹内智晴・中村菜摘・金子悠人（課員）、飯塚信久（文化財専門員）

凡　　例

1. 本書使用の方位は座標北である。
2. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器・軒瓦1/3、平瓦・丸瓦1/6を基本とした。なお、それ以外の縮尺の場合はその都度、実測図に縮尺を明記した。

目 次

例 言

凡 例

目 次

I 調査の概要		32 行里川台遺跡	20
1 調査の概要		33 通安寺遺跡	20
2 試掘調査の方法	1	34 鹿の子遺跡	21
II 試掘調査（令和2年度）		35 弓弦（未周知）	21
1 上曾（未周知）	4	36 穀籠遺跡	21
2 吉生（未周知）	4	37 並木遺跡	22
3 城岡江垂遺跡（新発見）	4	38 木間塚遺跡	23
4 下青柳（未周知）	7	39 丸山古墳群	23
5 木間塚遺跡	7	40 尼寺ヶ原遺跡	23
6 上人塚遺跡	7	41 国分遺跡	24
7 城岡（未周知）	9	42 加生野遺跡	25
8 山崎（未周知）	9	43 大塚遺跡	25
9 山崎（未周知）	9	44 吉生（未周知）	25
10 北田向遺跡	9	45 杉並三丁目（未周知）	26
11 北田向遺跡	11	46 鹿の子遺跡	26
12 城岡（未周知）	11	47 北田向遺跡	26
13 杉並三丁目（未周知）	12	48 町塚遺跡	27
14 上曾（未周知）	12	49 尼寺ヶ原遺跡	30
15 青柳要害跡（範囲拡大）	12	50 鹿の子遺跡	31
16 城岡江垂遺跡	14	51 柏原北遺跡	32
17 鹿の子遺跡	14	52 柏原北遺跡	32
18 佐久松山遺跡	15	53 柏原北遺跡	33
19 高浜要害	15	54 鹿の子遺跡	33
20 宮部遺跡	15	55 木間塚遺跡	33
21 宮部遺跡	15	56 府中城跡（第7地点）	33
22 北府中一丁目（未周知）	15	57 瓦谷（未周知）	35
23 中津川遺跡	15	58 田崎遺跡	35
24 佐久松山遺跡（範囲拡大）	15	59 杉ノ井遺跡	36
25 清水頭遺跡	18	III 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更	
26 国分遺跡	18	（令和4年度）	37
27 井関風返古墳群	19	IV 東大橋原遺跡の炭化材樹種同定	38
28 木間塚遺跡	20	V <補遺>	
29 東成井（未周知）	20	「すれ溝」（暫定）の考察に基づく水分量調査	
30 宮部遺跡	20	41
31 向原遺跡	20		

I 調査の概要

1 調査の概要

試掘調査は基本的には遺跡の範囲内を行なうが、範囲外であっても現地踏査の結果、地形等から遺跡の存在する可能性があると判断した場合、または、開発面積が広大である場合には範囲外であっても試掘調査を行った。また、現地踏査を行なった結果、アスファルトなどで覆われていて遺跡の現状が把握しきれなかったものに対しては、試掘調査を必ずしも行わず、工事立会いを行なったものもある。

2 試掘調査の方法

試掘調査は開発予定地内に数m²の大きさのトレンチを設定し、重機（バックホー）及び人力により、地山上面まで掘り下げ、遺構の有無を確認した。遺構か否か判断が困難な場合は、サブトレンチを設定するなど一部精査を行い、遺構の確認をおこなった。また、遺跡の時期や性格を判断するため、遺構であっても、あえてサブトレンチを設定し、掘り下げた場合もある。遺物は表面採集、トレンチ覆土中出土、遺構出土にわけて取り上げた。

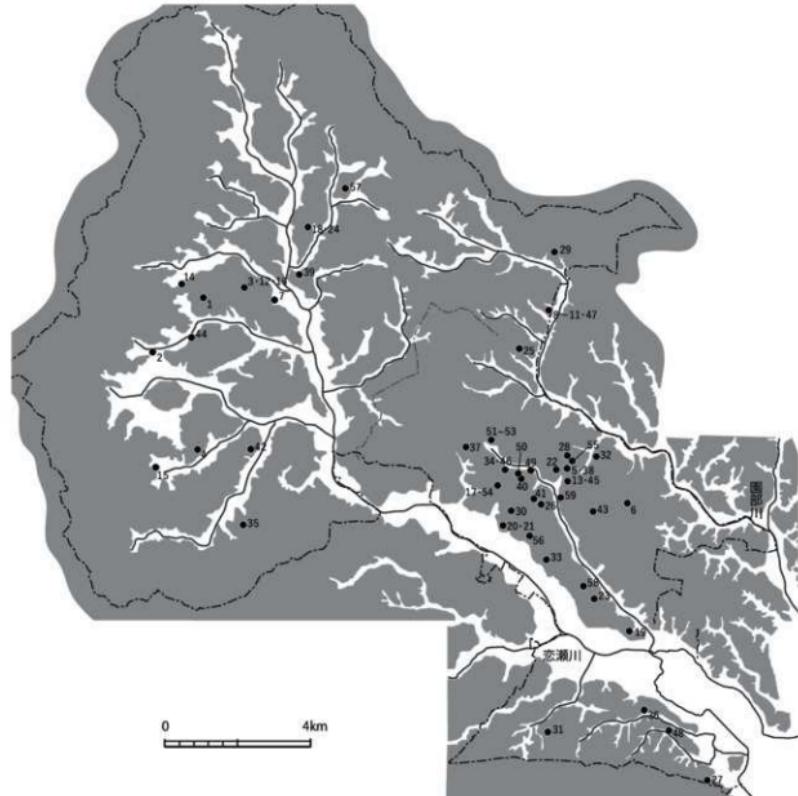


図1 本書所収の遺跡位置図



図2 常陸国衙跡・常陸国分寺跡・常陸国分尼寺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

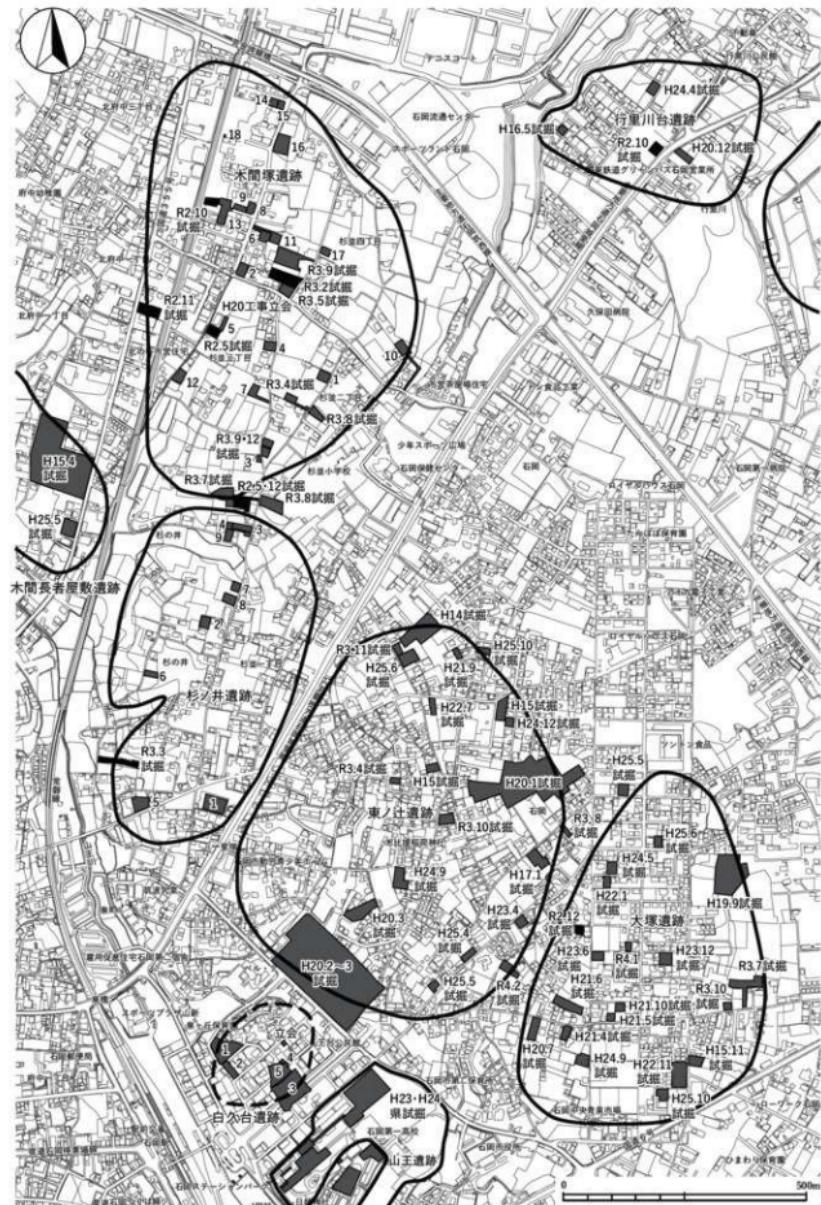


図3 木間塚遺跡・杉ノ井遺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

II 試掘調査（令和2年度）

1 上曾（未周知）

- ①所在地 石岡市上曾字小堀田 1423 番 1 ②調査面積 14 m²
③調査日 令和2年4月7日 ④調査原因 太陽光発電施設設置
⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.5m。



写真1 上曾 作業風景 (北から)

2 吉生（未周知）

- ①所在地 石岡市吉生字上根 3616 番 ②調査面積 7 m² ③調査日 令和2年4月15日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、一部トレーニングで湧水を確認し、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.8m。⑦遺物 1は表面採集された縄文時代中期土器。



写真2 吉生 作業風景 (北から)



図1 吉生 表面採集遺物 (S=1/3)

3 柿岡江垂遺跡（新発見）

- ①所在地 石岡市柿岡字江垂 3655 番 8、同番 9 ②調査面積 146 m² ③調査日 令和2年4月21日～22日 ④調査原因 事務所建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に20ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴建物跡2棟(SI01, SI02)を確認した。遺構確認面までの深さは0.4m程度。SI01は0.4m、SI02は0.6mほどの厚さで遺構覆土が存在する。いずれも貼床と思われる明確な硬化面が検出され、遺構覆土に奈良・平安時代の遺物を含むことから当該期の遺構と思われる。この結果を受け、令和2年4月22日付で「柿岡江垂遺跡」として「遺跡発見の通知」を茨城県教育委員会に提出した。⑦遺物 1・2はT-7のSI01覆土中から出土した。1は土師器蓋。2は須恵器甕。3・4はT-8のSI02覆土中から出土した。3は須恵器甕胴部。4は須恵器甕口縁部。

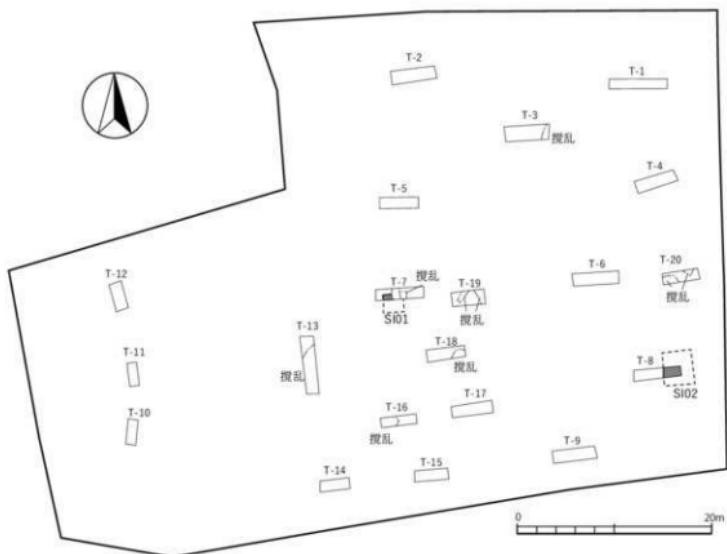


図2 柿岡江垂遺跡 全体図 ($S = 1/500$)



写真3 柿岡江垂遺跡 T-7 (西から)



写真4 柿岡江垂遺跡 T-8 (西から)



写真5・6
柿岡江垂遺跡
開発地全景
(南・東から)

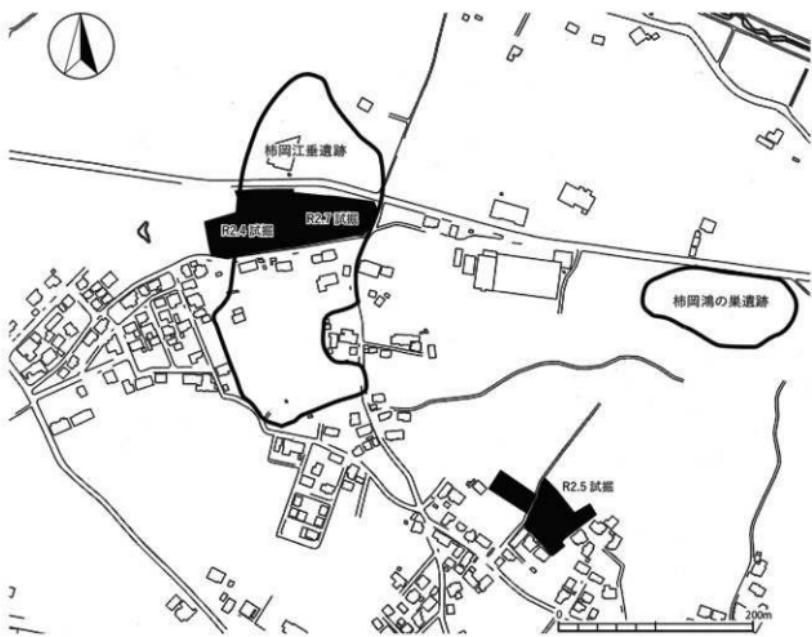


図3 柿岡 調査地点位置図 (S = 1/5,000)

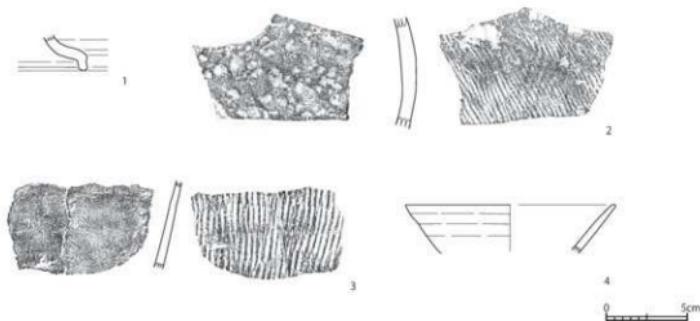


図4 柿岡江垂遺跡 出土遺物 (S=1/3)

4 下青柳（未周知）

- ①所在地 石岡市下青柳字龍頭 194 番の一部 ②調査面積 10 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 1 日 ④調査原因ふれあいの森リニューアル工事 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 当地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、縄文土器が散布している。開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5 ~ 0.85m。
⑦遺物 表面採集した遺物を掲載する。1~3 はいずれも縄文時代中期。4・5 は中世の鍋と思われる。

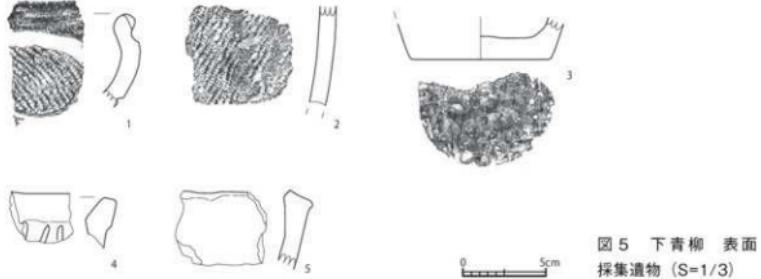


図 5 下青柳 表面
採集遺物 (S=1/3)

5 木間塚遺跡

- ①所在地 石岡市杉並三丁目 12558 番 13 ②調査面積 12 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 11 日 ④調査原因個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、近現代の耕作に伴うものと思われる土坑等が確認されたものの、他の遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.8m。

6 上人塚遺跡

- ①所在地 石岡市八軒台 3199 番 1 ②調査面積 3 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 13 日 ④調査原因 介護施設建設 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構は確認されなかったが、地表下約 0.3m でローム質土で構成される明褐色土層が確認された。地山確認面までの深さは 0.75 ~ 1.0m。⑦遺物 トレンチ上層から出土した遺物を掲載する。1 は縄文土器。2・3 は国民食器。2 は緑横二重線。3 は桜の文様が描かれる。印判は見られない。周辺には八軒台掩蔽壕、東府中掩蔽壕が存在し、開発地は石岡海軍航空基地の誘導路ともされ（曾根 2011 他）、同時代の遺物である。明褐色土層はそれに伴う整地層か。4 は近現代陶器。内面には「菊」の青文字やその下には金文字で「廣瀬」などの文字が見られる。他にも、「高瀬」「石岡町」などの記名のある陶器が確認されている。

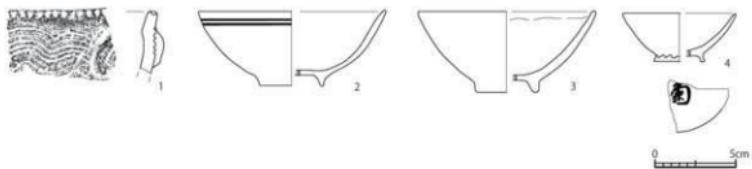


図 6 上人塚遺跡 出土遺物 (S=1/3)

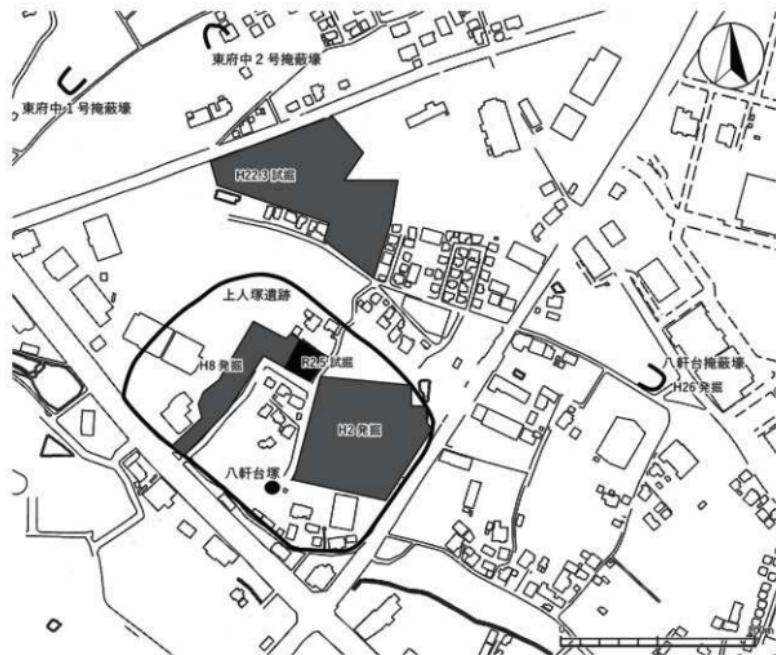


図7 上人塚遺跡周辺 調査地点位置図 (S=1/5,000)



図8 柿岡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

7 柿岡（未周知）

①所在地 石岡市柿岡字池下 3046 番 ②調査面積 5 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 15 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 当地は柿岡池下遺跡の近接地である。開発区域内に 5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。設定したすべてのトレンチにおいて、深さ 0.5 ~ 0.7m ほどで湧水を確認した。

8 山崎（未周知）

①所在地 石岡市山崎字北田向 2293 番 1 ②調査面積 11 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 20 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 当地は北田向遺跡の南側隣接地である。開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.6m。

9 山崎（未周知）

①所在地 石岡市山崎字北田向 2294 番 1 ②調査面積 5 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 20 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5 ~ 0.6m。⑦遺物 1 は表面採集された縄文土器底部。

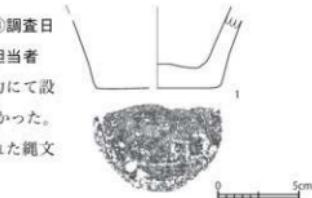


図 9 山崎表面採集遺物 (S=1/3)

10 北田向遺跡

①所在地 石岡市山崎字北田向 2289 番 1 ②調査面積 13 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 21 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 14ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴建物跡 1 棟 (SI01) 及び土坑 1 基 (SK01) を確認した。遺構確認面までの深さは 0.5 ~ 0.6m 程度。SI01 は 0.6m ほどの厚さで遺構覆土が存在する。貼床と思われる明確な硬化面を伴い、覆土から奈良・平安時代の遺物が検出されていることから当該期の遺構と思われる。SK01 は遺構確認面から 10cm ほど掘り込まれている。丸底状であり、壁面や底面に硬化はみられない。縄文時代中期の土器を伴う。



写真 7 北田向遺跡 T-12 (北から)



写真 8 北田向遺跡 T-12 底面拡大 (北から)

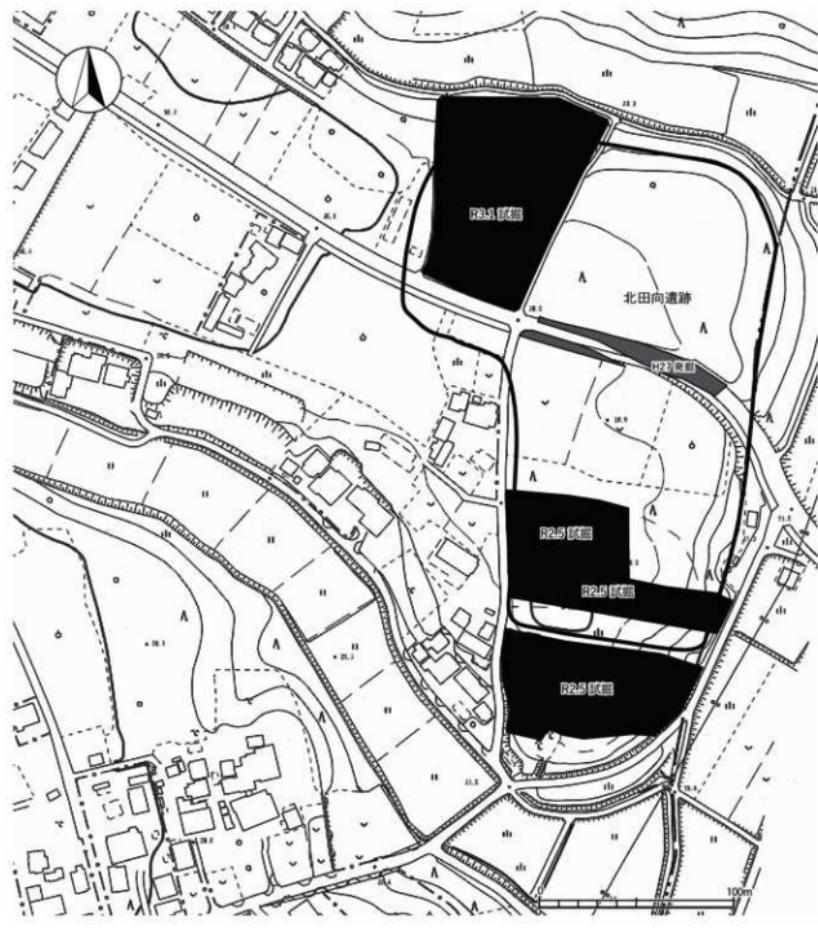


図 10 山崎 調査地点位置図 (S=1/2,500)

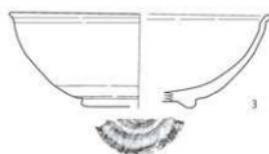
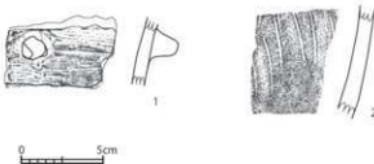


図 11
北田向遺跡
出土遺物
(S=1/3)

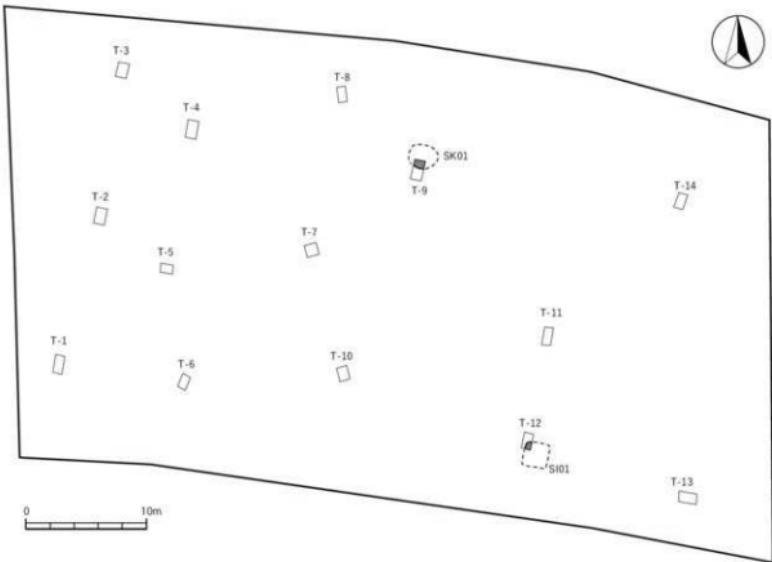


図 12 北田向遺跡 全体図 (S=1/400)

⑦遺物 1はT-4の覆土中、2はT-9のSK01の覆土中、3はT-12のSI01の覆土中からそれぞれ出土している。1・2は縄文土器。3は土師器壺。縄文土器は幅広い時期の遺物が散見される。

11 北田向遺跡

①所在地 石岡市山崎字北田向 2291番1 ②調査面積 5m² ③調査日 令和2年5月21日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.5～0.6m。

12 柿岡（未周知）

①所在地 石岡市柿岡字鴻ノ巣 3473番1、3482番 ②調査面積 14m² ③調査日 令和2年5月22日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.7m。⑦遺物 表面採集された遺物を掲載する。1は須恵器蓋。2は須恵器底部。



図 13 柿岡 表面採集遺物 (S=1/3)

13 杉並三丁目（未周知）

①所在地 石岡市杉並三丁目 12585 番 2、同番 6、同番 7 ②調査面積 12 m² ③調査日 令和 2 年 5 月 25 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.7m。

14 上曾（未周知）

①所在地 石岡市上曾字三本松 1073 番 2 ②調査面積 74 m² ③調査日 令和 2 年 6

月 2 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発地の一部は近現代の土地利用に伴い搅乱が目立った。遺構・遺物は確認されなかつた。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.7m。⑦遺物 1 は表面採集された瓦質土器である。



図 14 上曾 表面採集遺物 (S=1/3)

15 青柳要害跡（範囲拡大）

①所在地 石岡市上青柳字向 444 番 ②調査面積 16 m² ③調査日 令和 2 年 6 月 24 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 当地は八郷町史において青柳要害のⅡ郭が想定されている位置にある。地形は開発地南端部が平坦面となっており、それよりも北側は緩斜面となっている。南側隣接地は開発区域と比較して一段高くなっている。こちらには土塁や堀の一部が確認でき、また虎口状を呈する道路も現存する。開発区域内に 12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、平坦面において硬化面を検出し、また溝 1 条 (SD01) 及び土坑 1 基 (SK01) を確認した。遺構確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5m 程度。確認のために硬化面を部分的に掘り下げた結果、硬化面の厚さは 40cm 程度あり、特徴として拳大の花崗岩の混入が目立つ。SD01 は T-1 の南端部で確認され、開発区域南側を走る道路に向かって下がる。検出された位置から、主郭とⅡ郭を隔てる設備の可能性が考えられる。なお、延長線上に位置する T-5 では検出されることから、この間で SD01 は終了するか、もしくは南北方向に屈折するものと思われる。SK01 は人骨及び寛永通宝を伴うことから、近世の墓塚と思われる。SK01 が硬化面を掘り込むことから、硬化面の造成は近世以前にさかのぼるものと思われ、青柳要害に関連する可能性がある。

⑦遺物 1・2 は T-12 の覆土、3 は T-6 で検出された。1 は須恵器口縁部。2 は中世の土器と考えられる。周辺には微量の遺物が点在するのみである。3 は人骨とともに検出された寛永通宝である。なお、出土した人骨は鑑定の結果、頭蓋骨の乳様突起の状態から成人男性のものと推定された。他の特徴としては、歯石の堆積が多く、治療痕がない。また、梅毒に罹患している痕跡がみられる。歯科医療が普及する近世以前の人物として推定される。

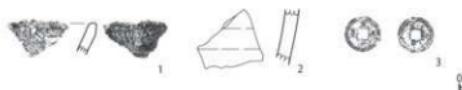


図 14 青柳要害跡 出土遺物 (S=1/3)



図 15 青柳要害跡 全体図 (S=1/400)



写真 9 青柳要害跡 T-6 完掘状況（北から）



写真 10 青柳要害跡 T-6 セクション（西から）



写真 11 青柳要害跡 T-6 出土人骨



写真 12 青柳要害跡 T-6 作業風景（南から）

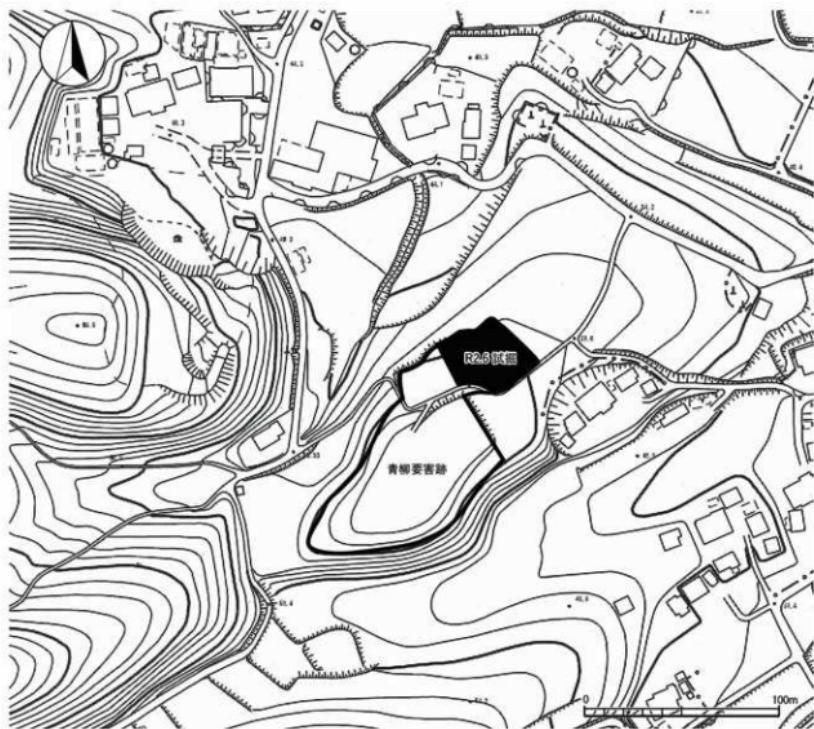


図 16 青柳要害跡 調査地点位置図 (S=1/2,500)

16 柿岡江垂遺跡

①所在地 石岡市柿岡字江垂 3655 番 1、3659 番 4、3660 番 6 ②調査面積 118 m² ③調査日 令和 2 年 7 月 20 日～21 日 ④調査原因 事務所建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 15 ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5 ～ 0.9m。⑦遺物 1 は表面採集された中世のかわらけ。周辺には縄文土器、奈良・平安時代の土師器や須恵器、中世の土師質土器などの散布が見られる。



図 17 柿岡江垂遺跡
出土遺物 (S=1/3)

17 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子一丁目 9358 番 2、同番 3 ②調査面積 12 m² ③調査日 令和 2 年 7 月 28 日 ④調査原因 資材置場造成 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 当地の地形は北西に向かって下がる緩斜面となつていて。開発区域内に 11 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、斜面上部における地山確認面までの深さは 0.2 ～ 0.5m であり、斜面中腹から下部にかけては 0.7m ～ 1.0m と大きく下がっている。いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は確認されず、遺物包含層等は形成されていないものと思われる。

18 佐久松山遺跡

①所在地 石岡市佐久字長口 296 番 2 ②調査面積 6 m² ③調査日 令和 2 年 8 月 20 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 8 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5m。

19 高浜要害

①所在地 石岡市高浜字坂の上 330 番 1, 字山ノ神 331 番の一部 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 2 年 8 月 21 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 8 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5m。

20 宮部遺跡

①所在地 石岡市若宮二丁目 110 番 4 ②調査面積 4 m² ③調査日 令和 2 年 8 月 25 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴
⑥調査概要 開発区域内に 4 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.8m。開発区域の南部及び西部は近現代の造成によって地形が大きく改変されていることが確認された。⑦遺物 1 は表面採集された灰釉陶器。黄瀬戸。

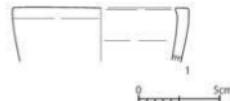


図 18 宮部遺跡 表面採集遺物
(S=1/3)

21 宮部遺跡

①所在地 石岡市若宮二丁目 110 番 7 ②調査面積 3 m² ③調査日 令和 2 年 8 月 25 日 ④調査原因 道路拡幅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 4 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.9m。

22 北府中一丁目（未周知）

①所在地 石岡市北府中一丁目 12413 番 26、同番 27 ②調査面積 62 m² ③調査日 令和 2 年 9 月 2 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は木間長者屋敷遺跡の北側隣接地である。開発区域内に 7 ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2 ~ 0.4m。

23 中津川遺跡

①所在地 石岡市中津川字上富田 31 番 1 ②調査面積 1 m² ③調査日 令和 2 年 9 月 4 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 1 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5m。

24 佐久松山遺跡（範囲拡大）

①所在地 石岡市佐久字長口 291 番 1 ②調査面積 12 m² ③調査日 令和 2 年 9 月 8 日 ④調査原因 太陽

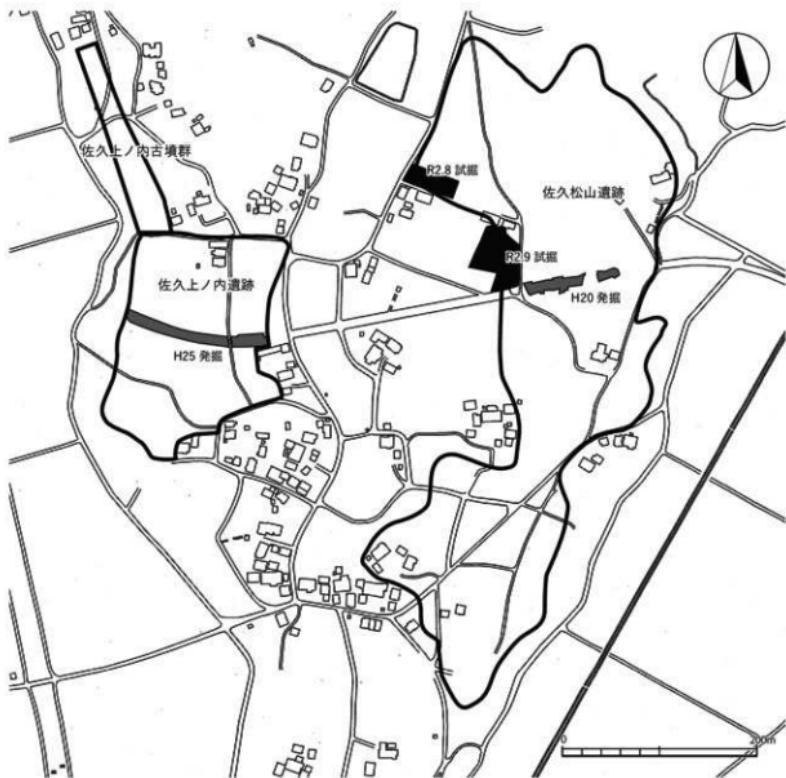


図 19 佐久 調査地点位置図 (S=1 / 2,500)

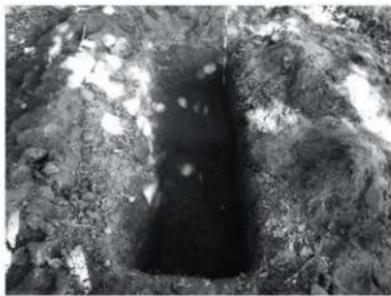
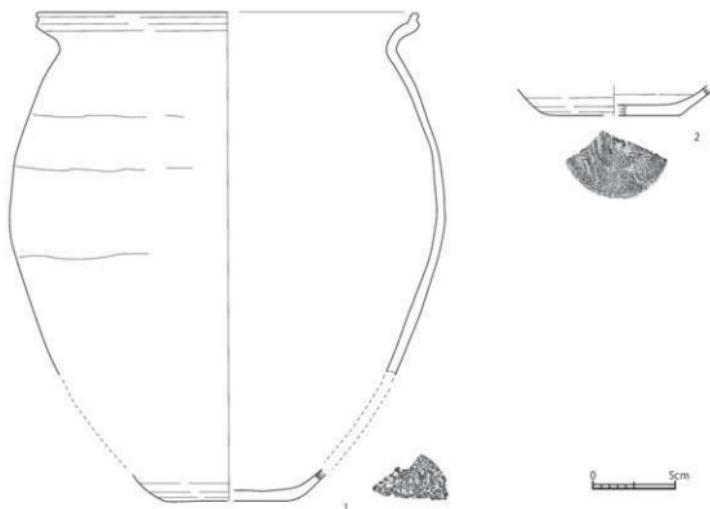


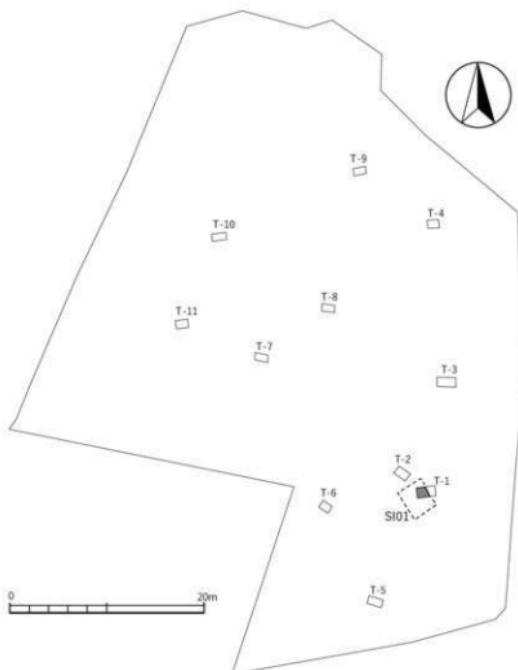
写真 13 佐久松山遺跡 T-1 (西から)



写真 14 佐久松山遺跡 開発地全景 (南から)



0 5cm



上
図 20 佐久松山遺跡
出土遺物 (S=1/3)

下
図 21 佐久松山遺跡
全体図 (S=1/500)

光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は西に向かって台地が下がり始める縁辺部から斜面中腹に位置する。開発区域内に 11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、最も東側、斜面の上部に設定した T-1において竪穴建物跡 1棟が確認された。奈良・平安時代の土師器を伴うことから、当該期の遺構と思われる。T-1における遺構確認面までの深さは 0.4m。その他のトレンチでは表土から若干の遺物が確認されたものの、遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは、開発区域東部が 0.4～0.6m、中央部では 0.7～1.1m、西部で 1.1m 以上と斜面の下部に向かって深くなっている。

⑦遺物 1 は T-1 の SI01 覆土中から出土した。ほぼ口縁部から胴部までを残す土師器甕。2 は T-7 から出土した土師器底部である。

25 清水頭遺跡

①所在地 石岡市半ノ木 11308 番 ②調査面積 11 m² ③調査日 令和 2 年 9 月 10 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3～0.7m。

26 国分遺跡

①所在地 石岡市府中五丁目 8156 番 3 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 2 年 9 月 15 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は常陸国分寺跡の北側近接地である。開発区域周辺の地形は北に向かって下がっているが、開発区域は盛土によって平坦面が造成されている。開発区域は北側隣接地と比べ 1.2m ほど高くなっている。開発区域内に 3ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、現況地表面から 1.7m で奈良・平安時代の瓦・土師器・須恵器をまとめて含む遺物包含層を確認した。⑦遺物 1・2 とも T-2 の遺物包含層中から出土した。1 は土師器甕。内面黒色。2 は平瓦。端部に被熱の痕跡が認められる。



写真 15 国分遺跡 T-2 (北から)

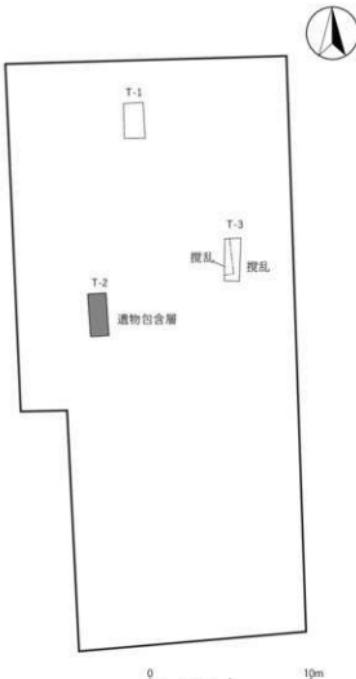
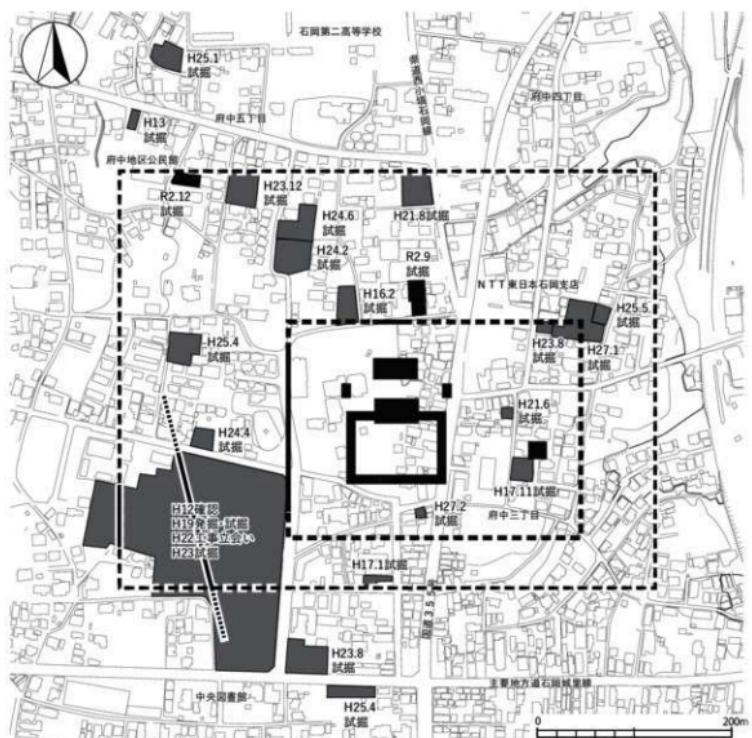
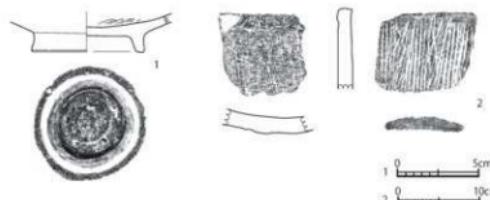


図 22 国分遺跡 全体図 (S=1/300)



上
図23 国分遺跡 調査地点図
(S=1/5,000)

左
図24 国分遺跡 出土遺物 (S=1/3・1/6)



27 井関風返古墳群

- ①所在地 石岡市井関地内 ②調査面積 12 m²
- ③調査日 令和2年9月17日～18日 ④調査原因 市道整備
- ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に13ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.6m。⑦遺物 1は

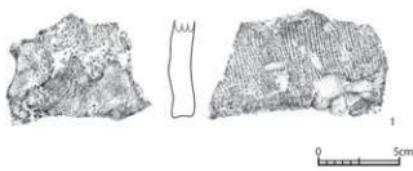


図25 井関風返古墳群 表面採集遺物 (S=1/3)

井戸周辺で表面採集された埴輪底部。製作痕が認められる。

28 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並四丁目 12215 番 66 ②調査面積 8 m² ③調査日 令和2年10月1日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.7m。

29 東成井（未周知）

①所在地 石岡市東成井字石堂 1665 番 ②調査面積 8 m² ③調査日 令和2年10月7日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.8m。

30 宮部遺跡

①所在地 石岡市若宮四丁目 7970 番 1 ②調査面積 10 m² ③調査日 令和2年10月7日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.6m。

31 向原遺跡

①所在地 石岡市三村川後田 2876 番 1 ②調査面積 92 m²
③調査日 令和2年10月13日 ④調査原因 太陽光発電施設
⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6～0.9m。



写真16 向原遺跡 調査風景（北から）

32 行里川台遺跡

①所在地 石岡市行里川 13210 番 1 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和2年10月15日 ④調査原因 事務所 ⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、旧石器時代から縄文時代草創期の可能性がある石器がローム土層中から1点のみ確認されたものの、他の遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.65～1.1m。

33 通安寺遺跡

①所在地 石岡市国府七丁目 1275 番 1 ②調査面積 6 m² ③調査日 令和2年10月23日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6～0.9m。
⑦遺物 1は表面採集された須恵器蓋。

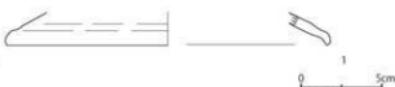


図26 通安寺遺跡 表面採集遺物（S=1/3）

34 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子一丁目 9582番4、同番5 ②調査面積 8m² ③調査日 令和2年10月27日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、すべてのトレレンチで地表から0.9mほどで湧水を確認した。湧水の時点では構・遺物は確認されなかった。

35 弓弦（未周知）

①所在地 石岡市弓弦字観音堂東 275番1、276番 ②調査面積 6m² ③調査日 令和2年10月29日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.5m。

36 蛸籠遺跡

①所在地 石岡市石川字殻籠 2756番 ②調査面積 8m² ③調査日 令和2年11月4日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、T-7以外のトレレンチでは地表から0.3m～0.6mで地山のローム層を検出した。地山が検出されるレベルは斜面上部にある北側が浅く南側が深くなることから、現在形成されている平坦面は造成の結果と思われる。T-7では周囲の結果から想定されるレベルを超えて地山が確認されなかった。現況地表面から0.6mほどまで掘り下げたところ焼土塊を検出した。これを受けて周辺を精査したところ、焼土塊の下層に貼床と思われる明確に硬化したローム土を主体とする層が確認されたことから、竪穴建物跡SI01とした。貼床はトレレンチ全面で確認され、壁の立ち上がり等は検出できなかったことから遺構の規模は不明である。遺構覆土から須恵器が検出されており当該期

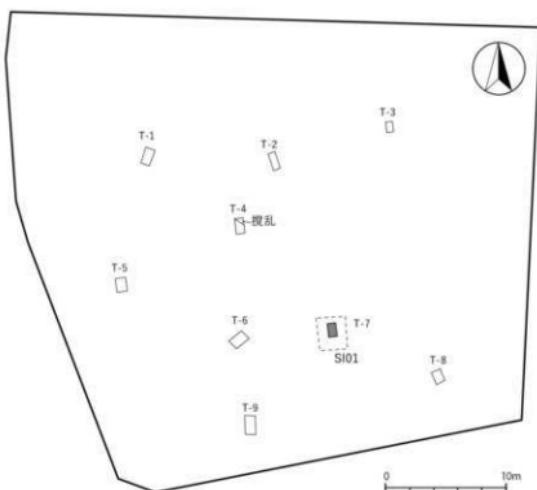


図27 蛸籠遺跡 全体図 (S=1/400)

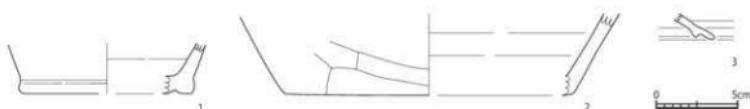


図28 蛸籠遺跡 出土遺物 (S=1/3)

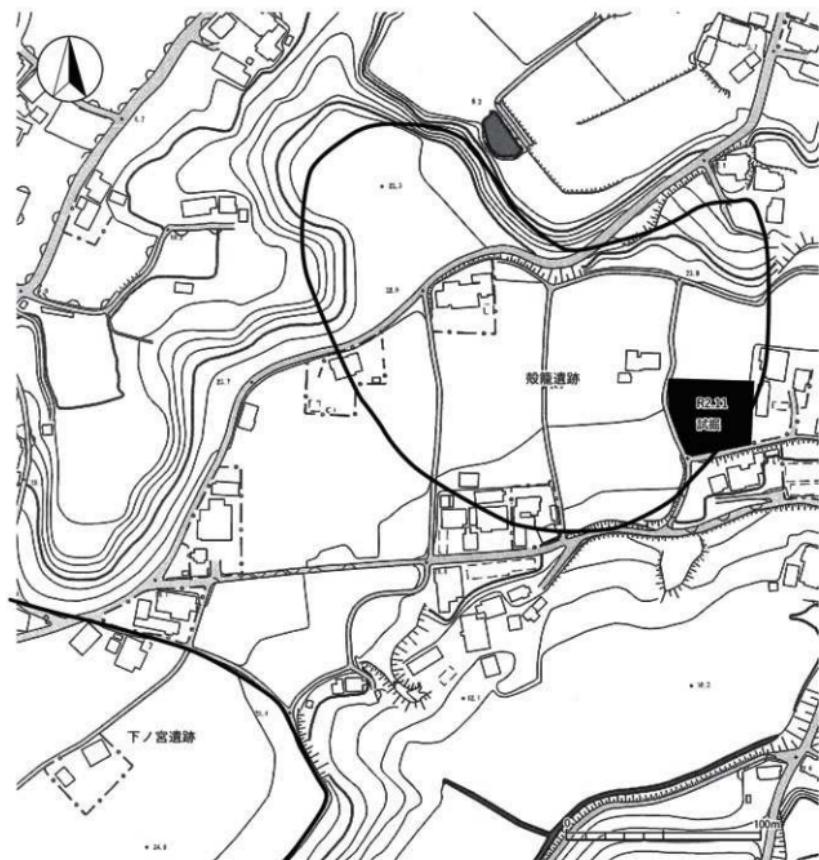


図 29 殼籠遺跡 調査地点位置図 (S=1/2,500)

の遺構と思われる。⑦遺物 1は表面採集された須恵器底部。2はT-4 覆土中、3はT-8の覆土中からそれぞれ出土した。2は須恵器底部、3は須恵器蓋。SI01周辺でも須恵器が多く認められた。

37 並木遺跡

- ①所在地 石岡市並木 1997番 105 ②調査面積 17 m² ③調査日 令和2年11月11日 ④調査原因 太陽光発電施設
- ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に16ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。そ



写真 17 並木遺跡 開発地全景（東から）

の結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.5m。

38 木間塚遺跡

①所在地 石岡市北府中一丁目 12548番7 ②調査面積 7m² ③調査日 令和2年11月20日 ④調査原因
集合住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡
の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.9m。

39 丸山古墳群

①所在地 石岡市柿岡 4118番9、同番11、同番12、同番13、同番17
②調査面積 10m² ③調査日 令和2年11月24日 ④調査原因 作業道
⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘
トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、若干の
弥生土器及び古墳時代前期土師器が検出されたが、遺構は確認されなか
った。地山確認面までの深さは0.3～0.9m。⑦遺物 1はT-3から出土
した弥生土器と思われる。



図30 丸山古墳群 出土遺物
(S=1/3)

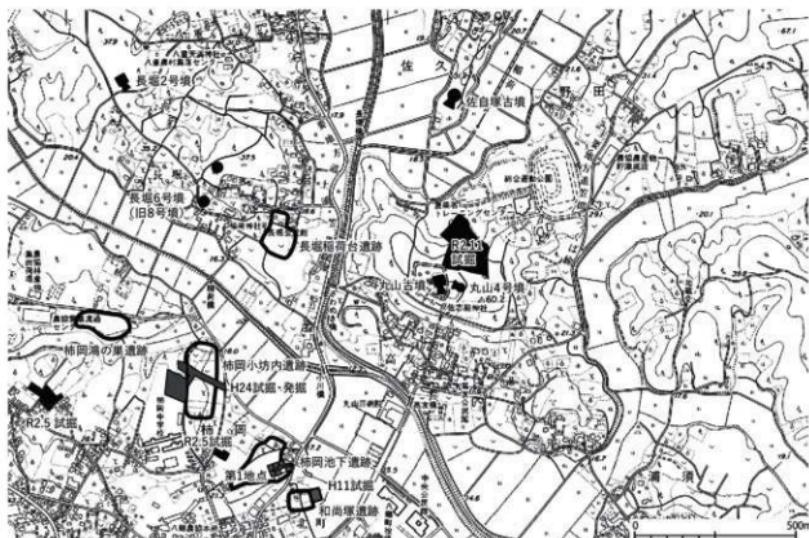


図31 柿岡 調査地点位置図 (S=1/15,000)

40 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8828番1、同番2 ②調査面積 8m² ③調査日 令和2年12月1日 ④調
査原因 建売住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設
定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～
1.0m。

41 国分遺跡

①所在地 石岡市府中五丁目8276番2 ②調査面積 7m² ③調査日 令和2年12月3日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内は常陸国分寺跡の北側、西に向かって下がる斜面の中腹に位置している。8ヶ所の試掘トレーナーを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、T-1・2において竪穴建物跡2棟を検出した。T-1で検出された遺構をSI01、T-2で検出された遺構をSI02とした。いずれも奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦などを伴うことから、当該期の遺構と思われる。T-1・2とともに遺構確認面までの深さは現況地表面から0.5mである。SI01の遺構覆土は部分的に0.1~0.2mほど残存し、貼床と思われる明確な硬化面が残るが、全体に近現代の土地利用に伴う擾乱が広がり地山との境は不明瞭となっている。遺構覆土に焼土を多く含むが、竪に由来する砂質土などは検出されていない。SI02の遺構覆土は0.3mほ

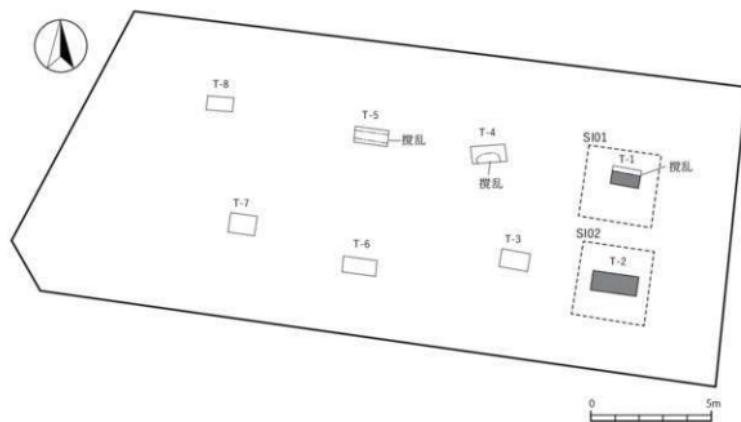


図32 国分遺跡 全体図 (S=1/200)

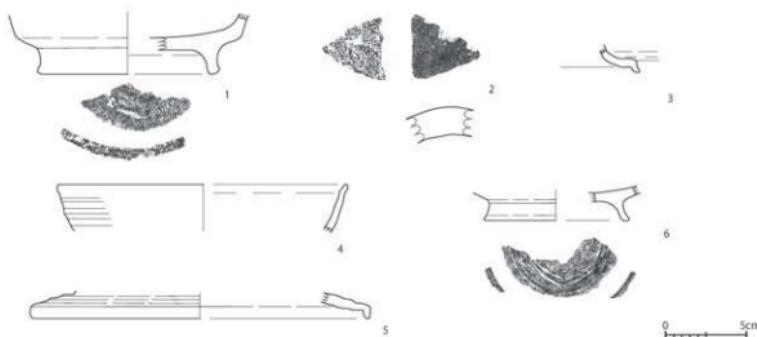


図33 国分遺跡 出土遺物 (S=1/3)



写真 18 国分遺跡 T-1 (東から)



写真 19 国分遺跡 T-2 (東から)

ど残り、床面は SI01 と同様に明確な硬化が認められる。また遺構の特徴として火を受けた痕跡のある石材が貼床面上に散乱していた。石材の東方からは竈に由来すると思われる砂質土が検出されており、石材は竈と関連する可能性がある。^⑦遺物 1・2 は T-1 の SI01 覆土より出土。1 は須恵器の高台付环。2 は丸瓦。3～6 は T-2 の SI02 覆土より出土。3 は土師器蓋。4 は土師器口縁部。5 は須恵器蓋。6 は須恵器の高台付环。奈良・平安時代の遺物が目立つ。

42 加生野遺跡

①所在地 石岡市加生野字裾久保 914 番 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 2 年 12 月 8 日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土から土師器・須恵器が検出されたが、いずれも端部の摩耗が進行しており、他所からの移動を想定させる。遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.8m。⑦遺物 1 は T-3 表土から出土した土師器頸部である。



図 34 加生野遺跡 出土遺物 (S=1/3)

43 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡字東ノ辻 13996 番 14 ②調査面積 4 m² ③調査日 令和 2 年 12 月 10 日 ④調査原因 建物解体 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 2ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.8m。



写真 20 吉生 開発地全景 (東から)

44 吉生（未周知）

①所在地 石岡市吉生字瓜谷 3117 番 ②調査面積 21 m² ③調査日 令和 2 年 12 月 15 日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.8 ~ 0.9m。⑦遺物 1 は表面採集された中世のかわらけである。

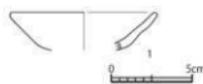


図 35 吉生 出土遺物 (S=1/3)

45 杉並三丁目（未周知）

①所在地 石岡市杉並三丁目 12585 番 3、同番 5、同番 8 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 2 年 12 月 17 日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.9m。

46 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子一丁目 9651 番 5 の一部 ②調査面積 21 m² ③調査日 令和 3 年 1 月 12 日 ④調査原因 介護施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 18ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2 ~ 0.7m。

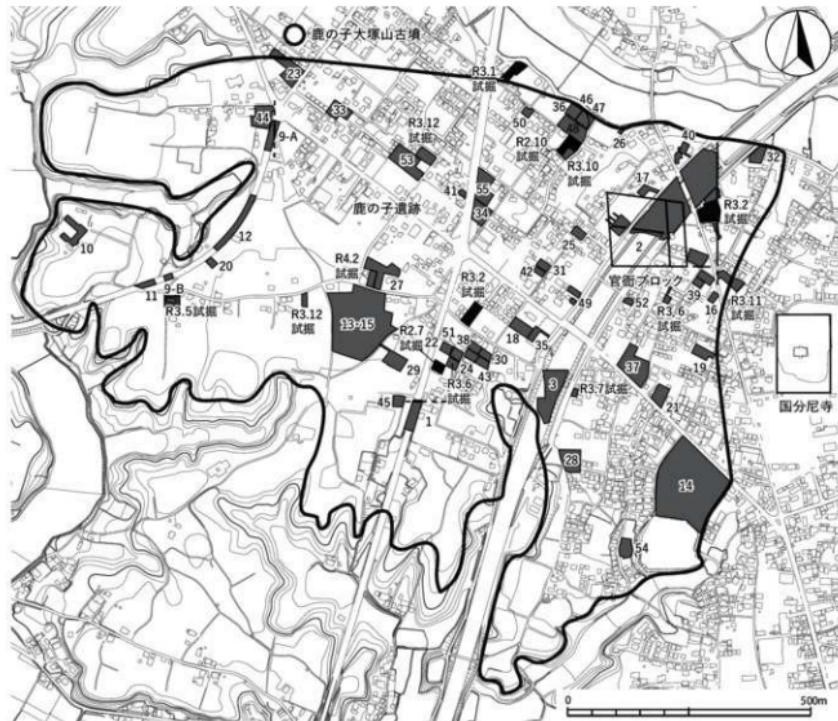


図 36 鹿の子遺跡 調査地点位置図 (S=1/ 10,000)

47 北田向遺跡

①所在地 石岡市山崎字陣場 2267 番 42 ②調査面積 103 m² ③調査日 令和 3 年 1 月 20 日 ④調査原因 駐車場 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 11ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡

の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.9m。

48 町塚遺跡

①所在地 石岡市井関字町塚4番1、10番1 ②調査面積 37m² ③調査日 令和3年1月26日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は町塚遺跡の西端部に位置する。地形は南北を置ケ浦方面から入り込む谷津に挟まれた馬の背状の台地上の平坦面から南西に向かって落ちる斜面上部となっている。開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。台地上平坦面にはT-1～4を設定した。これらのトレンチでは竪穴建物跡8棟及び土坑2基が確認された。遺構の帰属時期は出土遺物から古墳時代から奈良・平安時代と思われる。遺構確認面までの深さは現況地表面から0.3m。斜面部にはT-5～7を設定した。これらのトレンチでは竪穴建物跡1棟、土坑4基を検出した。竪穴建物跡は古墳時代の土師器を伴う。以上の結果から、台地上平坦面から斜面上部にかけて集落が形成され、継続的に営まれていたものと思われる。⑦遺物 1～11、25はT-3の表土から出土した。1～7は須恵器、8～

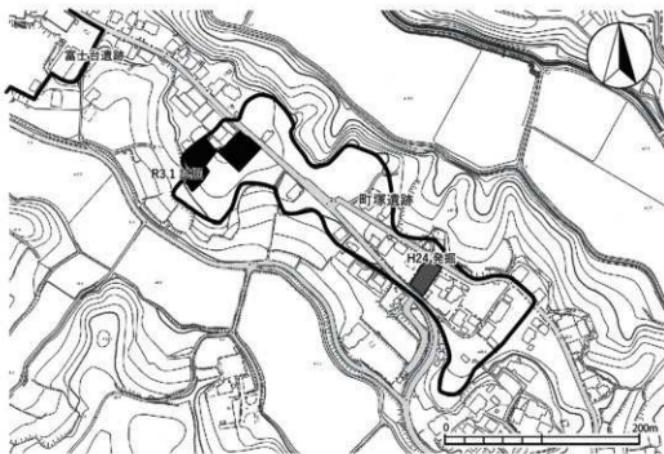


図37 町塚遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)



写真21 町塚遺跡 T-1（南東から）



写真22 町塚遺跡 T-2（南東から）



写真 23 町塚遺跡 T-3 (南東から)



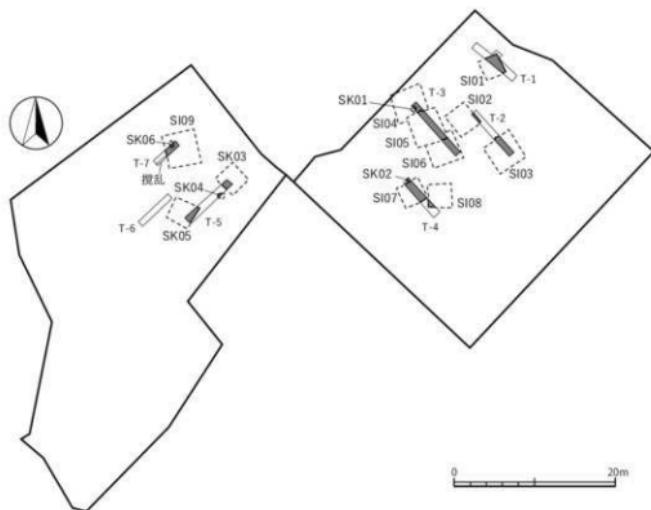
写真 24 町塚遺跡 T-4 (南東から)



写真 25 町塚遺跡 T-5 (北東から)



写真 26 町塚遺跡 T-7 (北東から)



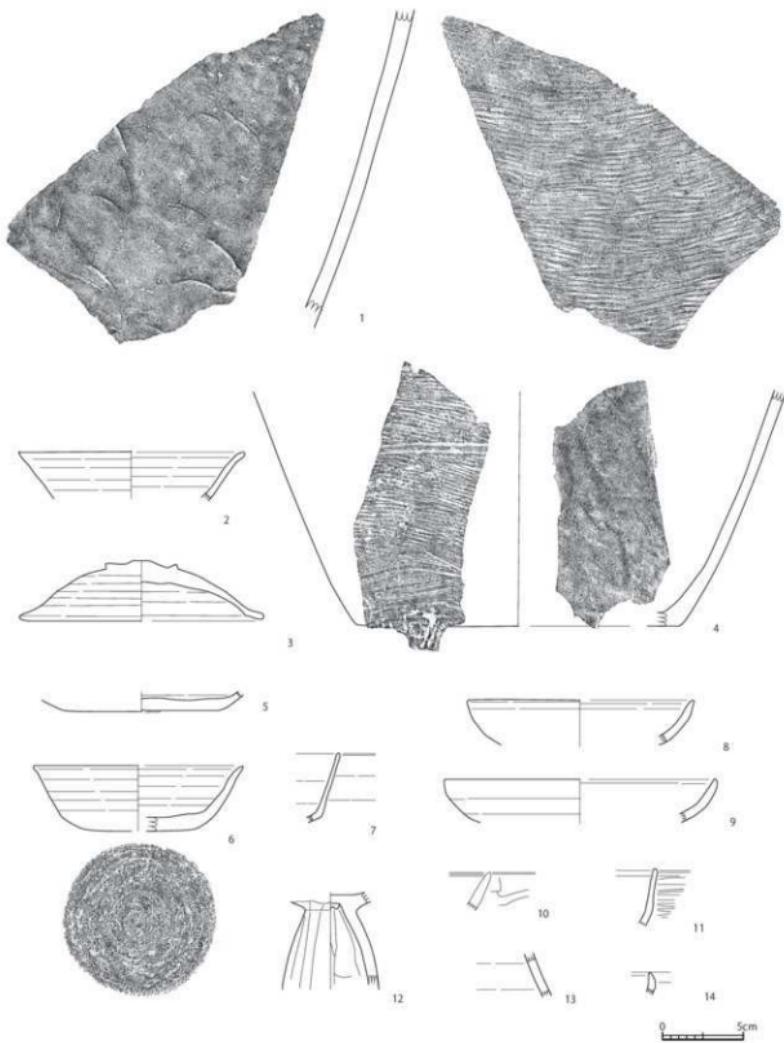


図 39 町塚遺跡 出土遺物 - 1 (S=1/3)

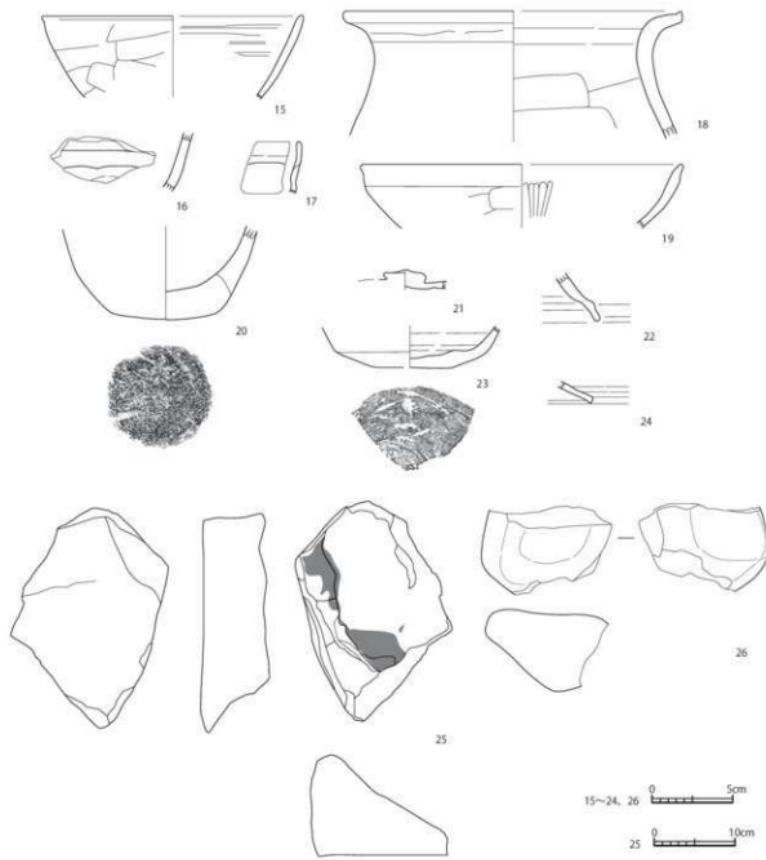


図 40 町塚遺跡 出土遺物 -2 (S=1/3・1/6)

11は土師器である。特徴的な遺物としては4の瓶が挙げられる。25は金床石と考えられる。鉄分の付着が表側に認められるほか、裏側は加工痕が認められる。12はT-4の表土から出土した土師器高环の脚部である。13はT-1の覆土中から出土した灰釉陶器、14はT-2のSI03覆土中から出土した土師器である。15～24、26はT-3のSI05覆土中から出土した。15～20は土師器、21～24は須恵器、26は石皿である。

49 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8632番 ②調査面積 7m² ③調査日 令和3年1月28日 ④調査原因 建壳住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に6ヶ所の試掘トレーナーを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～1.3m。

50 鹿の子遺跡

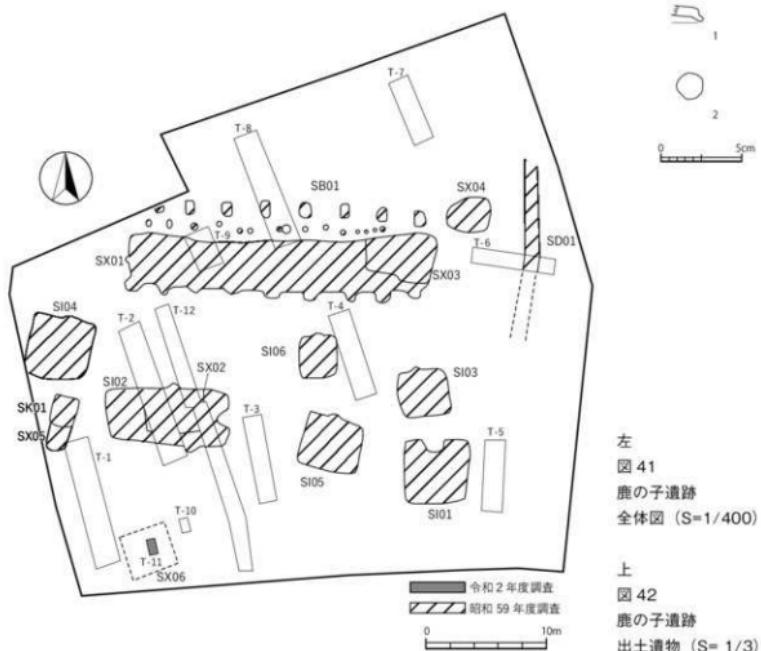
①所在地 石岡市若松三丁目 8972番、8973番1、8975番 ②調査面積 140 m² ③調査日 令和3年2月2日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 小杉山大輔、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は鹿の子遺跡の東部に位置する。昭和59年に一部の発掘調査が行われており、竪穴建物跡6軒、掘立柱建物跡1軒、工房跡6軒、土坑1基、溝1条が確認されている。今回調査では開発区域内に12ヶ所のトレンチを重機及び人力にて設定した。調査の結果、昭和59年調査範囲の遺構は完掘されていたが、未調査であった範囲から新たに工房跡と思われる遺構が確認された。地表から0.6mほどで遺構覆土を検出し、遺構覆土の厚さは0.2mほど。拳大の鉄滓な



写真27 鹿の子遺跡 T-2 (北から)



写真28 鹿の子遺跡 T-6 (東から)



左
図41
鹿の子遺跡
全体図 (S=1/400)

上
図42
鹿の子遺跡
出土遺物 (S=1/3)

どを作り、が跡と思われる砂質土と焼土のまとまりを検出した。昭和 59 年調査の遺構番号から連続して SX06 とした。開発区域全体の地山確認面までの深さは 0.2 ~ 0.6m。⑦遺物 1・2 は T-2 の SI02 埋め戻し土出土。1 は土師器蓋の外周部。2 は土玉である。古墳時代を中心に弥生時代以降検出される遺物であるが、時期は不明である。

51 柏原北遺跡

①所在地 石岡市柏原町 9953 番 2 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 3 年 2 月 3 日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 10 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.9m。

52 柏原北遺跡

①所在地 石岡市柏原町 9953 番 6 ②調査面積 12 m² ③調査日 令和 3 年 2 月 4 日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 10 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.7m。

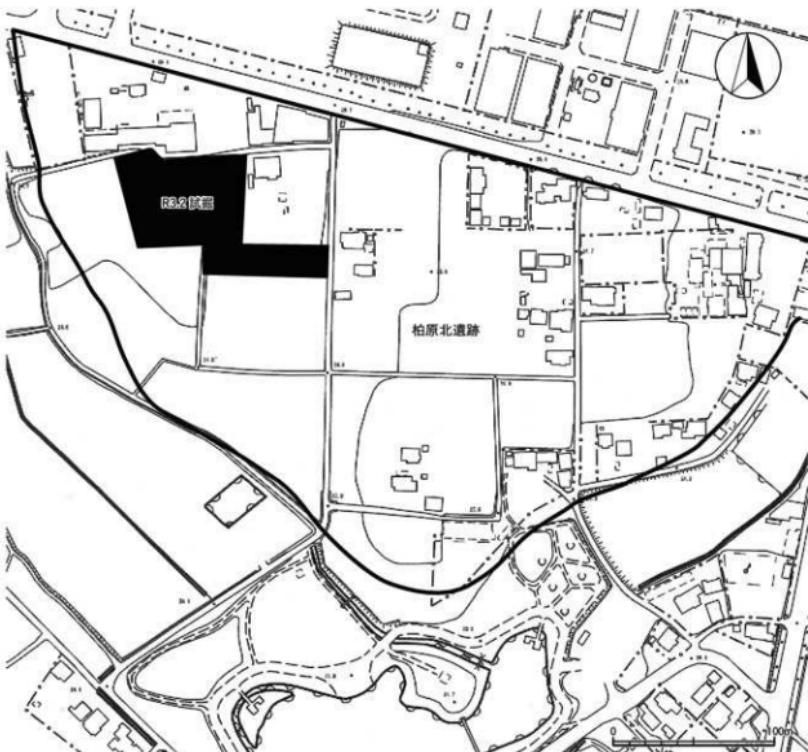


図 43 柏原北遺跡 調査地点位置図 (S=1/ 3,000)

53 柏原北遺跡

①所在地 石岡市柏原町 9953 番 5 ②調査面積 9 m² ③調査日 令和 3 年 2 月 5 日 ④調査原因 太陽光発電施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.7 ~ 1.0m。

54 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子一丁目 9371 番 3 ②調査面積 31 m² ③調査日 令和 3 年 2 月 24 日 ④調査原因 介護施設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 1.5 ~ 1.8m。

55 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並四丁目 12973 番 11、同番 21、同番 60、同番 61、同番 62 ②調査面積 18 m² ③調査日 令和 3 年 2 月 26 日 ④調査原因 建売住宅、資材置場 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 18ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5m。

56 府中城跡（第 7 地点）

①所在地 石岡市總社一丁目 421 番 29 の一部 ②調査面積 18 m² ③調査日 令和 3 年 3 月 5 日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域は石岡小学校の南東に位置しており、平成 25 年に一度試掘調査が実施されている。当時は敷地内に建物が存在したことから限定的な調査であったが、奈良・平安時代及び中世の土器を作った土坑 1 基及びピット 1 基が確認されている。今回調査では地上部に存在した建物が除去されたことから、

開発区域全体に対してま

んべんなく 12ヶ所の試掘

トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。調査の結果、竪穴建物跡 1 棟、土坑 2 基を確認した。遺構番号は平成 25 年

調査を引継ぎ、竪穴建物跡を SI01、土坑をそれぞれ SK02、SK03 とした。

調査区域全体において近現代の土地利用の影響が顕著であり、現況地表面から 0.4m ~ 0.7m は搅乱され、部分的には 1m ほどまで達していた。SI01 の遺構

覆土は 0.1m 程度残り、奈良・平安時代の遺物を含

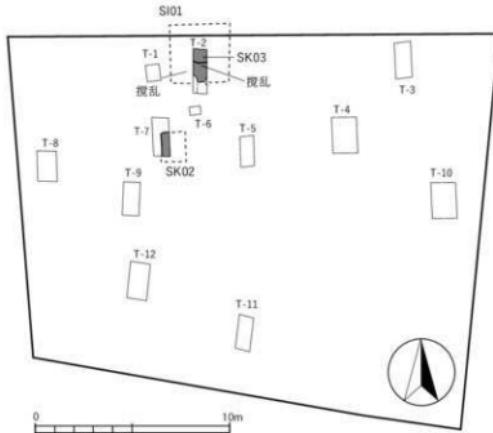


図 44 府中城跡 全体図 (S=1/250)



写真 29 府中城跡 T-2 (南から)



写真 30 府中城跡 T-7 (南から)

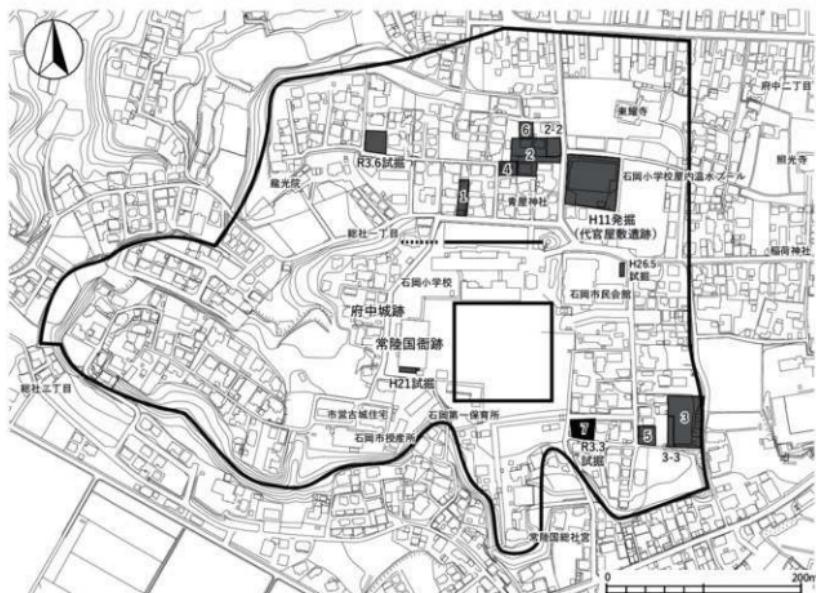


図 45 府中城跡 調査地点位置図 (S=1/ 5,000)

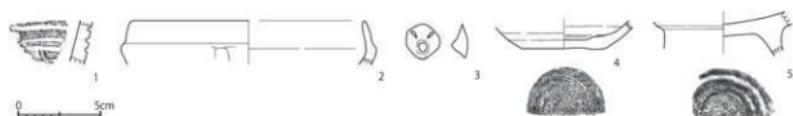


図 46 府中城跡 出土遺物 (S=1/3)

む。SK02は方形を呈し底部も平坦であるが、貼床と思われる明確な硬化は確認できることから土坑としている。SK03はSI01の下層から検出されたことから、奈良・平安時代以前にさかのぼる遺構と思われる。⑦遺物1はT-1覆土中から出土した縄文土器。2・3はT-9覆土中から出土。2は土師器壺。3は不明土製品。4はT-10擾乱中から出土した中世のかわらけ。5はT-12覆土中から出土した土師器高台付壺。

57 瓦谷（未周知）

①所在地 石岡市瓦谷字達磨 993番 ②調査面積 29m²

③調査日 令和3年3月8日 ④調査原因 太陽光発電施設

⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域の周辺には、南西約300mの台地上に佐久松山遺跡、北約400mに二子塚古墳群、東方を流れる船荷川の対岸には瓦谷古墳群や片蓋遺跡、野田田向遺跡が所在する。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、奈良・平安時代の土師器・須恵器が散布することから試掘調査を実施した。開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6~1.1m。⑦遺物1は古墳時代前期~中期の土師器。表面採集。

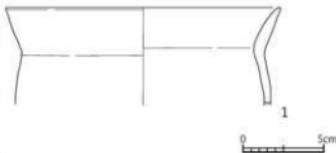


図47 瓦谷 表面採集遺物 (S=1/3)

58 田崎遺跡

①所在地 石岡市茨城三丁目 4764番2 ②調査面積 15m² ③調

査日 令和3年3月11日 ④調査原因 個人住宅 ⑤調査担当者

竹内智晴 ⑥調査概要 開発地は山王川に向かって伸びる台地の北側縁辺部に立地している。開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。調査の結果、開発区域南部に設定したT-10・11にて、竪穴建物跡1棟を検出し、遺構番号SI01とした。貼床と思われる明確に硬化した面を持ち、遺構北部で竈と思われる赤色焼土を含む砂質土のまとまりを確認した。試掘調査にて確認されたSI01の南北幅は約3.4m。東西幅は遺構東側が不明であり推測となるが、竈からSI01北西角まで約1.5mであったことから、竈を中心に反転し約3mと想定される。遺物は須恵器の高台付壺などがあり、奈良・平安時代と思われる。なお、特記事項として土師器と比べ須恵器が多い点を挙げておく。地山確認面までの深さは0.3~0.4m ⑦遺物1はT-8表土から出土した瓦質円盤。

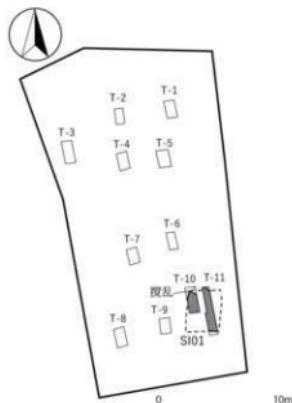


図48 田崎遺跡 全体図 (S=1/400)



図49 田崎遺跡 出土遺物 (S=1/3)

2・3はT-11のS101覆土から出土した。2は土師器で、木葉痕が認められる。3は須恵器高台付环。



写真 31 田崎遺跡 T-10（北から）



写真 32 田崎遺跡 T-11（北から）



図 50 田崎遺跡周辺 調査地点位置図 (S=1/ 10,000)

59 杉ノ井遺跡

- ①所在地 石岡市杉の井 12708番 ②調査面積 5 m² ③調査日 令和3年3月22日 ④調査原因 駐車場
⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4~0.6m。

Ⅲ 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更（令和4年度）

石岡市には403の埋蔵文化財包蔵地が存在する（令和5年3月末時点）。これらの埋蔵文化財包蔵地の範囲を示すものとして、『石岡市遺跡分布調査報』（石岡市教育委員会・石岡市遺跡分布調査会2001）および『茨城県遺跡地図』（茨城県教育委員会2001）が発行されている。だが、発行後の現地踏査や試掘調査などによって、新規発見や範囲変更が生じていることから、平成24年度までの新規発見・範囲変更については、『市内遺跡調査報告書 第8集』（2013年）、平成25・26年度については『市内遺跡調査報告書 第10集』（2015年）、平成27年度から令和2年度については『市内遺跡調査報告書 第12集』（2021年）、令和3年度については『市内遺跡調査報告書 第13集』（2022年）に報告した。今号ではそれに続き、令和4年度の新規発見・範囲変更について、一覧表の形で報告する。なお、包蔵地の位置・範囲については既存のものを含め、「いばらきデジタルマップ」で公開している。

新規登録遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	新規登録年度
八郷-151	柿岡原巻遺跡	柿岡344ほか	古墳、奈良・平安、中世	包蔵地	令和4年度
八郷-152	宇治会芝崎遺跡	宇治会1893-1ほか	繩文、古墳、奈良・平安、中世	包蔵地	令和4年度

包蔵地範囲・位置変更

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	範囲変更年度
八郷-150	大塚和内遺跡	大塚1838ほか	繩文、奈良・平安	集落跡	令和4年度

IV 東大橋原遺跡の炭化材樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

石岡市の東大橋原遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、1978年に実施された2次調査で、A3（A-J1）号竪穴住居から出土した炭化材8点である。なお、No.2は試料内に複数の樹種が確認できたため、分析総数は9点となった。遺構の時期は、縄文時代中期と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と实体顕微鏡観察による形状の確認と、残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のイヌエンジュとクリ、ムクロジの3分類群が確認された。結果を表1に示す。

表1 樹種同定結果一覧

No.	ラベル	樹種	形状（部位）	残存径（最大）
1	78. 2次 木炭層	ムクロジ	破片多数	2.0×1.0cm
2-1	HS. 2次 A区 3号 木炭層	クリ	破片多数（節）	1.5×1.5cm
2-2	HS. 2次 A区 3号 木炭層	イヌエンジュ	破片	1.2×0.8cm
3	HS. 2次 A区 3号 木炭層	クリ	破片多数（節）	2.2×2.0cm
4	HS. 2次 A区 3号 木炭層	クリ	破片多数（節）	1.2×1.0cm
5	HS. 2次 A区 3号 木炭層	クリ	破片多数	0.3×0.3cm
6	-	クリ	破片多数	0.8×0.5cm
7	-	クリ	破片多数	2.0×2.0cm
8	-	クリ	破片多数（節）	3.0×1.0cm

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. マメ科 図版1 1a-1c (No.2-2)

大型で厚壁の道管が年輪のはじめに並び、晩材部では小道管が集団をなして接線～斜線状に配列する。軸方向柔組織は周囲状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は3～5列幅の同性で、接線断面において軸方向柔組織、道管要素が層界状構造をなす。

イヌエンジュは温帯に分布する落葉高木である。材はやや重硬で、韌性も高く、心材の保存性は高い。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 2a-2c (No.2-1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に單列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版1 3a-3c (No.1)

大型でやや厚壁の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では小道管が數個放射方向に複合して散在する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管の内腔にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔組織は周囲状～帶状となる。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性で、3～5列幅のややいびつな筋錐形である。

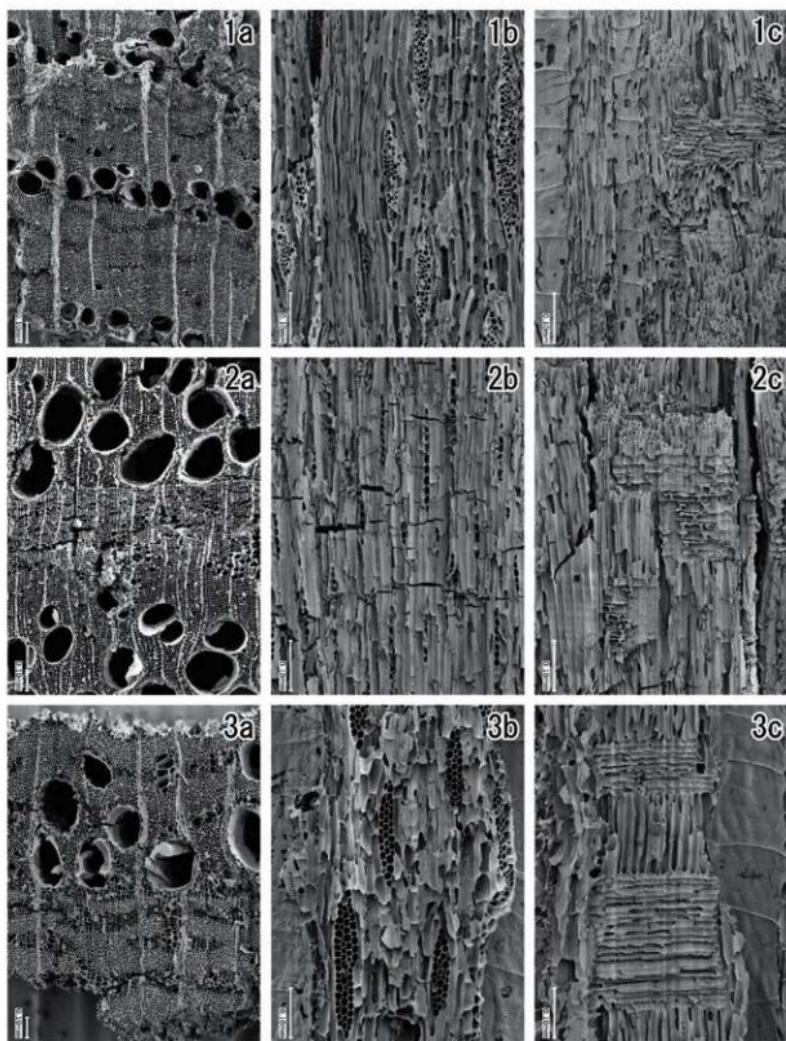
ムクロジは亞熱帯から温帯に分布する落葉高木である。材は、やや重硬から中庸程度である。

4. 考察

全体では、クリが7点で、イヌエンジュとムクロジが各1点であった。クリは重硬な材で、イヌエンジュとムクロジも比較的重硬な材である（平井, 1996）。いずれも比較的日当たりの良い環境に生育する樹種であり、遺跡の周辺に生育していた樹木が伐採利用されたと推測される。また、関東地方北部の縄文時代中期ごろの住居跡出土の炭化材では、クリを中心とした広葉樹が多く確認されており（伊東・山田編, 2012）、今回の分析結果も同様の傾向を示している。

引用・参考文献

- 平井信二（1996）木の大百科，394p, 朝倉書店。
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－，449p, 海青社。
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳（2011）日本有用樹木誌，238p, 海青社。



図版1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. イヌエンジュ (No. 2-2)、2a-2c. クリ (No. 2-1)、3a-3c. ムクロジ (No. 1)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面

V <補遺> 「すれ溝」(暫定)に基づく水分量調査

金子 悠人

はじめに

令和5年度の文化財調査報告会において、土器を吊り下げる想定した、「すれ溝」(暫定)の考察を行った(金子2023)。

今回、その結果を踏まえたうえで、土器を製作し、乾燥過程の部位ごとの水分量を調査した。ここにその調査結果を記す。なお、土器の製作においては通常、乾燥とセットで「つぶし」と呼ばれるような水濡れを防ぐ作業を行うが、今回は乾燥状態を調査するため、土器の乾燥に伴う成形等は行っていない。

1 調査方法

粘土を2kg用い、底径9cm程度、器高20cm程度の円筒形の土器を3個体製作し、それぞれをA・B・Cとした。Aはまず、製作した敷物に正位で設置した。6時間乾燥させた後、「すれ溝」の考察と同様に麻紐を用いて土器を吊り下げた。Bはプラスティック製の箱に土を敷き詰めて固めた後、その上に正位で設置した。Cは製作した敷物に正位で設置した。土器はいずれも日陰にて保管し、時間経過ごとに138時間後まで水分量を測定した。実験時期は1月から2月である。

水分量は、(株)佐藤計量器製作所の電気抵抗式水分測定器(SK-940A)を用い^③、口縁部・胴部・外底部のそれぞれに3箇所の計測を行い、その平均値を求めた。計測は同一箇所で3回行い、その平均値を記した。なお、平均値は小数第2位の値を切り捨てている。

2 結果

結果を表1～2、図1～4に示す。

製作時の土器の水分量は、22～23%であった。製作後から18時間後までは、製作時の水分量の90%程度をどの部位も保っていたが、30時間を過ぎると、口縁部から徐々に水分量が減少していった。42時間を過ぎると、数値はやや上下しながらも口縁部・胴部は水分量が減少に向かう。一度製作時の水分量から91%～94%まで乾燥した外底部はその水分量が製作時の94～100%と再び増加する。その後、時間経過とともに減少へと向かう。吊り下げを行った個体Aについては、他の2つの土器よりもやや底面の水分量の減少が早い傾向が確認できたが、明確な差異が認められたとは言い難い。

水分量の減少は、口縁部→胴部→底部になることが指摘されている(上高津貝塚土器づくりの会2014)が、改めてその傾向が認められた。

	製作時	2h	4h	6h	18h	30h	42h	54h	66h	78h	90h	102h	114h	126h	138h	
A	口縁部	22.3	21.7	20.9	20.8	21.1	17.6	16.2	18.6	16.6	17.1	15.8	15.6	16.4	16.7	17.9
	胴部	22.7	22.0	21.9	21.8	21.6	21.3	16.3	18.9	19.0	18.7	16.5	15.4	18.8	18.7	18.6
	底部	23.2	23.2	22.9	22.5	21.7	21.3	22.0	22.0	21.9	21.8	21.0	21.2	19.1	17.9	18.8
B	口縁部	22.9	22.9	22.1	22.3	21.8	18.6	18.3	17.1	15.5	16.5	14.2	13.7	16.4	15.5	18.8
	胴部	23.4	22.5	22.1	21.3	22.7	21.3	20.7	21.7	20.9	18.8	18.0	18.5	17.0	18.7	16.4
	底部	23.4	22.8	22.7	22.8	22.6	21.8	22.7	22.6	22.8	22.4	22.4	21.4	22.4	21.4	19.3
C	口縁部	22.5	21.8	22.2	21.8	22.2	21.0	21.1	17.0	18.9	18.8	16.7	18.6	15.0	18.7	15.9
	胴部	23.3	22.3	22.4	22.3	22.2	21.5	22.0	20.8	21.6	21.8	21.0	18.4	19.0	21.4	17.9
	底部	22.7	22.7	23.1	22.3	22.7	22.0	22.6	22.8	22.6	22.3	21.7	21.4	22.0	21.2	21.2

表1 時間経過ごとの土器の水分量(%)

	2h	4h	6h	18h	30h	42h	54h	66h	78h	90h	102h	114h	126h	138h	
A	口縁部	97.3	93.7	93.3	94.6	78.9	72.6	83.4	74.4	76.7	70.9	70.0	73.5	74.9	80.3
	胸部	96.9	96.5	96.0	95.2	93.8	71.8	87.7	83.7	82.4	72.7	87.8	82.8	82.4	81.9
	底部	100.0	98.7	97.0	93.5	91.8	94.8	94.8	94.4	94.0	90.5	91.4	82.3	77.2	81.0
B	口縁部	100.0	96.5	97.4	95.2	81.2	79.9	74.7	67.7	72.1	62.0	59.1	71.6	67.1	82.1
	胸部	96.2	94.4	91.0	97.0	91.0	88.5	92.7	89.3	80.3	76.9	79.1	72.6	79.9	70.1
	底部	97.4	97.0	97.4	96.6	93.2	97.0	96.6	97.4	95.7	95.7	91.5	95.7	91.5	82.5
C	口縁部	96.9	98.7	96.9	98.7	93.3	93.8	75.6	84.0	83.6	74.2	82.7	86.1	83.1	79.7
	胸部	95.7	96.1	95.7	95.3	92.3	94.4	89.3	92.7	93.6	90.1	79.0	81.5	91.8	76.8
	底部	100.0	101.8	98.2	100.0	96.9	99.6	100.4	99.6	98.2	95.6	94.3	96.9	93.4	93.4

表2 製作時を100とした場合の時間経過ごとの土器水分量減少率(%)

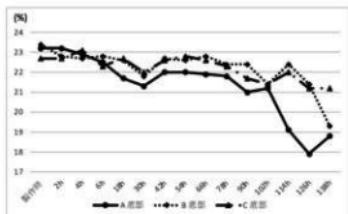


図1 各個体底部の時間経過ごとの土器の水分量(%)

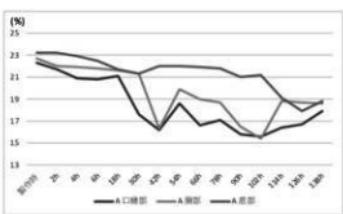


図2 A (吊り下げ) 個体の時間経過ごとの部位ごとの土器の水分量(%)

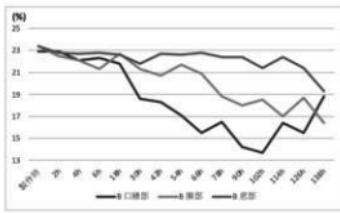


図3 B (床面設置) 個体の時間経過ごとの部位ごとの土器の水分量(%)

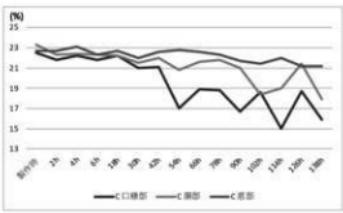


図4 C (敷物設置) 個体の時間経過ごとの部位ごとの土器の水分量(%)

3 若干の考察と課題

土器製作時から、水分量は基本的に減少するが、土器外底面については、一度水分量が増加するタイミングが存在した。これは、重力により口縁部・胸部の水分が底部に向かって集まるためと思われる。

水分量は条件により明確な差異が認められたとは言い難いが、途中口縁部と底部での色調の変化が見られ、そうした視覚的情報と口縁部装飾から逆位での乾燥が難しい場合に水分量の調整を土器作りの場でも志向していた可能性を考えられる。

今後は、個体数や条件を変えて、さらなる検証を進めたい。

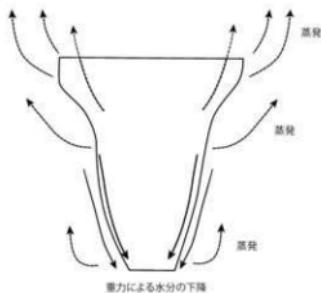


図5 正位設置の場合の土器の水分量変化模式図

註

(1) 資料への機械の當て方やその強さによる不安定さ等の課題は指摘されてきた（秋田 2009）が、簡易で製作途上の土器を測定するのには向いており、測定箇所を増やすことでより精密な値を求めた。

参考文献

- 秋田かな子 2009 「土器製作における時間の制御について：縄文後期前葉“軟質性ナデ痕土器”的観察と復元から」『日々の考古学 2』東海大学文学部考古学研究室編 六一書房
上高津貝塚土器づくりの会 2014 『縄文土器の作り方』上高津貝塚土器づくりの会
金子悠人 2023 「縄紋中期土器底部の溝の分析と土器の乾燥」『第 7 回石岡市文化財調査報告会発表要旨』石岡市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさはうこくしょ
書名	市内遺跡調査報告書
副書名	
巻次	第15集
編集者名	金子 悠人
著者名	竹内 智晴 金子 悠人 黒沼 保子
編集機関	石岡市教育委員会
所在地	〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680番地1 TEL 0299-43-1111
発行年月日	2024(令和6)年3月28日

市内遺跡調査報告書

第15集

2024(令和6)年3月28日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680番地1

TEL 0299-43-1111(代)

FAX 0299-43-1117

印刷 メディア情報株式会社

〒305-0824 茨城県つくば市葛城根崎1番地

TEL 029-893-3130

FAX 029-893-3140
